

養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

名前：宮下幸一

勤務先：三田市民・済生会病院

診療科：産婦人科

卒後：7年目

経歴：

2020年4月～2022年3月 公立宍粟総合病院 初期研修医

2022年4月～2024年3月 兵庫県立丹波医療センター

2024年4月～2025年3月 兵庫県立淡路医療センター

2025年4月～2026年3月 神戸大学医学部附属病院

2026年4月～ 三田市民・済生会病院

【養成医として働きはじめてみて】

三田市で生まれ育った僕ですが、養成医として公立宍粟総合病院で初期研修を開始することとなりました。それまで経験したことのない過疎地での生活がはじまりましたが、実際に過ごしてみると住めば都でした。職場もアットホームな雰囲気非常に楽しく仕事ができました。病院紹介でよく目にする「垣根が低い」とはまさにこの職場だと思えるような病院でした。僻地病院であり医療資源も限られていることから、多くの手術に携わらせていただき麻酔もたくさんの経験をさせていただきました。その経験が今でも緊急時の麻酔対応などに活かしていると感じています。

学生の頃より手術に携わることのできる科で働きたいと考えていました。さらに、産科・婦人科の手術に加えて分娩や内分泌など扱う分野の広さに興味を抱いて産婦人科の道に進むことを決めました。

【産婦人科医となってから】

産婦人科専攻医となり、丹波、淡路、神戸大学の病院で勤務してきました。丹波や淡路では、基本となる一般的な分娩や手術を経験しました。地方の市中病院での診療を経験した後に大学病院で勤務すると、ありきたりですが、違った視点から市中病院での診療を振り返る機会にもなりさらに勉強になりました。東京や北海道など様々な地域での学会にも参加しましたし、専攻医では珍しくロボット手術の術者ライセンスも取得することができました。現在は三田市民・済生会病院

(4年後に済生会兵庫県病院と合併するため先に経営統合して名前だけ変わりました)で勤務しています。過疎地ではなく養成医の派遣の前例はない病院でしたが、今年は通勤時間の短い病院での勤務希望があったため、調整していただきました。産婦人科としては分娩取扱施設ではあるものの規模は小さく、医師2人で日常業務をこなしています。少人数で外来、手術、分娩を手分けして担当しなければならず、総合力が身につく環境だと感じています。

養成医として派遣される病院は基本的に大病院ではなく、経験する分娩や手術の数は決して多くはありません。しかし1つ1つの症例を大切にして学習することで一般の産婦人科医と遜色ない力が身につきますし、手術については最近では動画等の勉強ツールが充実しているため経験症例数に関わらず成長できるものと捉えています。

【私生活とのバランス】

専攻医の間に子どもが2人生まれ、仕事にも慣れない中で育児と両立することになり体力がかなり削がれましたが、普段から妊婦や子育て世代を相手に診療する科としての勉強も兼ねて奮闘してきました。これまたありきたりな表現ですが、養成医どうして家族ぐるみで遊ぶことも多々あり、現在でも休日には養成医として派遣されてきた各地域にもよく遊びに行ったりしています。宍粟のカブトムシ触れ合い、丹波の果物狩りやカフェ、淡路の海や公園など、地域には遊び場がたくさんあり、地域巡りの経験を育児にも活かすことができているのかなと思います。

恵まれた環境に感謝しながら今後も自分のペースで公私ともに充実させていければ良いと考えています。

